

定例調査

「北陸経済研究」2021 年 5 月号掲載

北陸の産業天気図（22 業種）と産業動向

北陸経済研究所では、北陸の主要産業のうち 22 業種について「2020 年度下期の動向」と「2021 年度上期の見通し」を調査し、産業天気図を作成した。

◎調査の概要

調査時期：2021 年 3 月

ヒアリング企業・団体数：62

判定基準：ヒアリング企業の売上高、収益状況および業種全体の統計データから所内で合議

産業天気図一覧表

NO. 業種

	20年度 上期 実績	20年度 下期 見通し	20年度 下期 実績	21年度 上期 見通し		20年度 上期 実績	20年度 下期 見通し	20年度 下期 実績	21年度 上期 見通し
製造業					非製造業				
1 アルミ建材					13 建設				
2 建設機械					14 マンション・住宅				
3 工作機械・工具					15 運輸				
4 繊維機械					16 大型小売店				
5 コンピュータおよび周辺機器					17 家電販売				
6 電子部品					18 自動車販売				
7 化学・医薬品					19 温泉宿泊				
8 プラスチック成形加工					20 ホテル				
9 繊維工業					21 外食産業				
10 食品製造					22 情報サービス				
11 眼鏡枠									
12 伝統産業									
					晴れ	薄日	曇り	小雨	雨

※ 詳細は 2021 年 4 月 26 日発刊の「北陸経済研究 2021 年 5 月号」をご覧ください。

◎今回産業天気図のポイント

1. 20年度下期見通しと下期実績の比較

20年度下期見通しと実績を比較すると、“上方修正”は製造業の2業種、“下方修正”は非製造業の2業種。

(1) 上方修正の「アルミ建材」「建設機械」は、生産に回復傾向がうかがえることによる。

(2) 下方修正の「自動車販売」は世界的な半導体不足による自動車メーカーの減産の影響、「温泉宿泊」は2回目の緊急事態宣言およびGoTo トラベル停止の影響によるものである。

2. 21年度上期見通し

21年度上期は8業種で改善の見通し。

(1) 3業種が「曇り」から「薄日」へ改善見通し。「建設機械」は国内需要の回復に加えコロナ禍等で減産となっている海外工場の代替生産の継続、「電子部品」はスマートフォンや5G関連向けの旺盛な需要、「建設」は好調な公共工事と民間工事の回復期待によるものである。

(2) そのほかの5業種はいずれも「雨」から「小雨」への改善であり、本格的な回復にはまだ時間がかかりそうである。

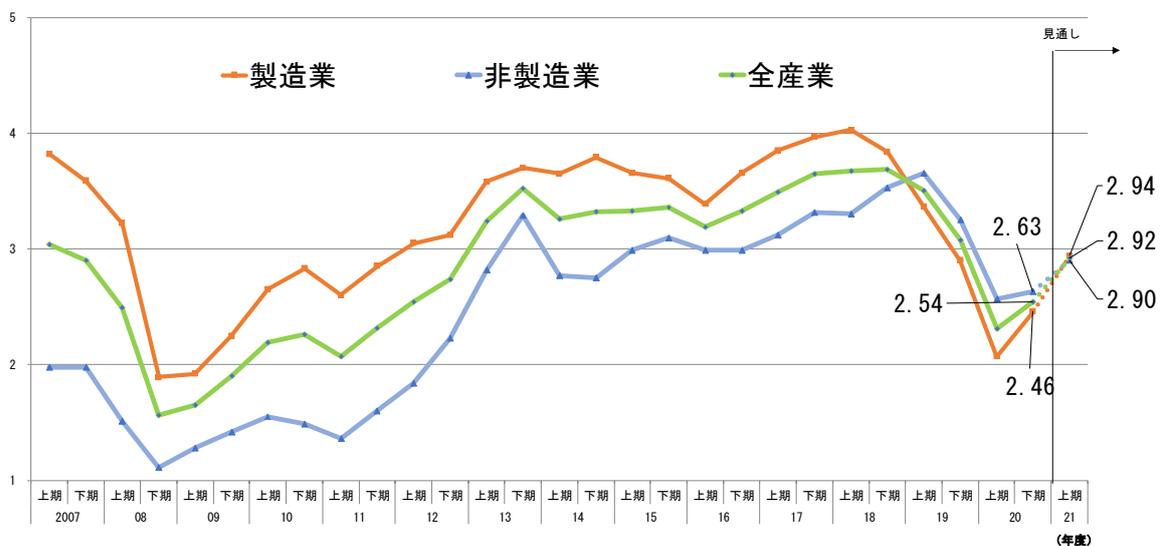
ランク別の業種数の推移

	20年度 上期 実績	20年度 下期 実績	21年度 上期 見通し
晴れ	0	0	0
薄日	4	3	6
曇り	1	6	3
小雨	8	7	12
雨	9	6	1

●製造業が回復基調を牽引

各業種の景況感を数値（「晴れ」=5、「雨」=1など）に置き換えて産業規模により加重平均したところ、20年度下期実績は全産業では2.54となった。20年度上期実績は2.31であったので、0.23上昇したことになる。業種別では製造業が2.46（+0.39）、非製造業が2.63（+0.06）となっている（図表1）。

図表1 ランク加重平均値の推移



(注) 1. 21年度上期は見通し。
2. 各業種のランクを数値に置き換え（「晴れ」=5、「薄日」=4、「曇り」=3、「小雨」=2、「雨」=1）、これを各業種の産業規模で加重平均した。

21年度上期の見通しは、全産業で2.92(+0.38)となった。業種別では、製造業は2.94(+0.48)、非製造業は2.90(+0.27)と、わずかの差ではあるが製造業が非製造業を上回る見込み。北陸では長らく製造業が産業全体を牽引してきたが、19年度上期に初めて非製造業が製造業を上回った。これは米中貿易摩擦の影響などにより製造業の景況感が大きく後退したことによるものであったが、今回、機械関連産業や電子部品産業の急回復を受け、再び製造業が上回る見通しとなっている。

●コロナ以外に、原材料不足・価格高騰も懸念材料に

21年度上期の北陸の産業動向は、新型コロナウイルスの感染状況次第という不確定要素はあるものの、引き続き改善に向かうとみられる。

ヒアリングでは、様々な業種でウイズコロナ・アフターコロナを見据えた新商品の提案・生産が積極的に行われていることが確認できており、今後に期待したい。

一方、昨年後半からの世界的な経済の回復基調を受け、原油、半導体、石油樹脂製品などの原材料不足、および海上コンテナ不足といった問題が顕在化してきている。それに伴う原材料価格高騰など負担増加が懸念されており、北陸の企業においても上期における収益圧迫要因となるであろう。

また、世界的な半導体不足によってサプライチェーンの混乱が再びクローズアップされている。昨年のコロナ禍では、人の移動が制限され従業員確保ができないことによる工場の操業停止という事態が起こった。今回は、自然災害や火災などによって部品工場が操業停止となり、需要の急回復期にもかかわらず自動車減産という事態になった。北陸では、近年、大雪による交通網の混乱・寸断を幾度も経験している。今回の半導体不足による混乱を対岸の火事と考えず、業種にかかわらずサプライチェーンの見直し、BCP（事業継続計画）の再確認が求められる。

以下、天気図に変化のあった業種について、主な根拠を解説します。

<製造業>

1. アルミ建材 20/下期見通し：小雨 20/下期実績：曇り 21/上期見通し：曇り（担当：熊野）

（下期実績）10～12月の全国新設住宅着工戸数は前年同期比▲7.0%となり、減少幅が2桁だった上期と比較して回復傾向が見える。同期間のアルミ建材全体の生産量は前年同期比▲7.1%となり、減産幅は縮小傾向にある。コロナ禍により換気効果に優れた製品や相次ぐ台風被害を最小限にとどめる製品の需要が高まり、特に電動シャッターの販売が伸びた。

（上期見通し）住宅用・ビル用ともに回復の兆しがみられ、各社の業況は徐々に上向くとみられる。

2. 建設機械 20/下期見通し：小雨  20/下期実績：曇り 21/上期見通し：薄日 (担当：熊野)

(下期実績) 北陸主要4機種のうち主力製品である「油圧ショベル(ユンボ)」の生産台数が前年同期比2~3割増、それに次ぐ「ホイールローダー(タイヤで自走するショベル)」が1~2割増、「ブルドーザ」が6割増、最も台数の少ない「モーターグレーダー(整地用作業板付きの自走式車両)」が2~3割増となり全機種が前年実績を上回った。北陸生産の過半数を占める国内向けは、コロナ禍で上期の需要は低調だったが、下期はコロナ禍で生産体制が整わない海外工場を応援する代替生産を実施し、年明けの豪雪によって除雪用車両の需要が急増して多忙となった。

(上期見通し) 前期の勢いが継続、拡大する見通しである。国内では公共事業による土木向けの需要が堅調に推移すると見込まれ、民間工事向け需要にも回復の兆しがみられる。また、世界的なコロナ禍の中、海外工場に対する代替生産が引き続き実施される見通しであり、これに各国の経済対策による需要の増大が見込まれる。

3. 工作機械・工具 20/下期見通し：雨 20/下期実績：雨  21/上期見通し：小雨 (担当：熊野)

(上期見通し) 中国の製造業が設備投資を復活させており、メーカーによっては年末から受注の回復傾向が見え始めている。販売先別には欧州からの引き合いが弱い一方、北米や国内からの受注が増加傾向にあり、一部のメーカーからは次期決算でコロナ前に近い水準での回復を見込む声が聞かれる。業界全体に回復傾向がうかがえる。

4. 繊維機械 20/下期見通し：雨 20/下期実績：雨  21/上期見通し：小雨 (担当：熊野)

(上期見通し) 準備機械は上期の不調から一転し、2020年12月以降は中国やインド、ベトナムや今まで注文がなかったトルコなどから大口受注が入り始めた。北陸製の準備機械で最終加工された糸は、北陸製の織機に経糸として載る可能性が高い。従って、準備機械の受注が急回復する中、織機の需要に繋がると考えられる。また、織機メーカーでは「事業再構築補助金が始まれば国内織布メーカーの投資マインドが高まるのでは」と近年低調だった国内需要の復活に期待を寄せる。

6. 電子部品 20/下期見通し：曇り 20/下期実績：曇り  21/上期見通し：薄日 (担当：米屋)

(下期実績) 昨年秋以降、自動車向けの半導体不足が顕在化した。さらに2月の北米寒波による半導体工場停止の影響などにより世界的に半導体不足が深刻化し、国内外で自動車減産の動きがみられたが、車載向け電子部品メーカーでは、現時点での影響は軽微であるとみている。

(上期見通し) スマホ、5G関連、半導体製造装置、テレワーク需要など、上期の電子部品需要は引き続き旺盛であるとみられる。一方、世界的な半導体不足がいつまで続くかによっては、車載向けをはじめとして影響を受ける部品が出てくる恐れがある。また、中国市場は引き続き拡大基調が見込まれるが、ヨーロッパではコロナの感染再拡大に伴うロックダウンが断続的に行われており、先行きを懸念する声がある。

6. 繊維工業 20/下期見通し：雨 20/下期実績：雨  21/上期見通し：小雨 (担当：辻野)

(上期見通し) 北陸の繊維工業は原料面や生産面で中国に大きく依存し、さらに中国が最大消費地ともなっているため、需要・供給共に中国の影響を大きく受けている。その中国で新型コロナの感染拡大が抑え込まれ、生産活動が元の状態に戻ってきたことは明るい材料と数えられる。海外との商談は引き続き制約があるが、事前に商品見本を送付した上でオンライン商談につなげている例もみられる。

国内では2年連続の暖冬から一転、2020年の冬に秋冬衣料の在庫が少し片付いており、新規発注の期待が高まっている。産業用は自動車向けカーシートが引き続き堅調に推移。土木・建築向けの繊維需要も復活が期待されている。スポーツ衣料品向け繊維は、外出自粛による需要減少で一時弱まったものの、コロナ後を見越した受注活動が増えつつある。

<非製造業>

13. 建設 20/下期見通し：曇り 20/下期実績：曇り  21/上期見通し：薄日 (担当：倉嶋)

(上期見通し) 国の令和2年度3次補正で国土強靱化対策が延長され、2021年度の各県一般会計における普通建設事業費も2月補正、3月補正を合わせた実質的な額でみるといずれの県でも前年度から増加しており、公共事業をめぐる環境は明るい状態が続くとみられる。また、民間非住宅建築の予定額は底入れから反転の兆しがみられ、商業や物流施設の工事が増加するなど回復を示す動きは強まりつつある。

18. 自動車販売 20/下期見通し：曇り  20/下期実績：小雨 21/上期見通し：小雨 (担当：藤)

(下期実績) 昨年春の緊急事態宣言解除以降は、客足も徐々に戻り、コロナ禍の中で一部の人気車種を中心に発生していた納期の長期化も徐々に解消され、新車販売は緩やかに復調しつつあった。しかし、車載用半導体の供給不足が世界的に深刻化する中、自動車メーカー各社は減産を余儀なくされ、新車供給にも徐々に影響が出てきた。販売店でも、受注があっても客に引き渡しができず、売上が立たないなどの影響が出ている模様である。

(上期見通し) 車載用半導体の供給不足は深刻だ。日本を含めた各国は、大手半導体メーカーがある台湾に供給増加を要請しており、メーカーも増産に向けて動き始めているが、実際に供給量を増やすのには時間がかかる。また、3月に国内の大手半導体メーカー工場で火災が発生したことも、半導体供給不足に拍車をかける。半導体供給不足の解消には長い時間を要するとみられ、販売店では顧客の納車待ちの長期化や、新車販売の起爆剤となる各メーカーの新型車の市場投入の遅れなどを懸念する声が聞かれた。

19. 温泉宿泊 20/下期見通し：小雨  20/下期実績：雨  21/上期見通し：小雨 (担当：藤沢)

(下期実績) 一昨年秋の台風を受けたうえに昨年から続くコロナ禍によって北陸の温泉宿は極めて厳しい状況となっている。とはいえ2020年は、夏場に地域版、秋にかけては国のGOTOキャンペーンなどもあり、温泉全体では年間で前年比半分ほどの宿泊客数の落ち込みで抑えることができた。今年に入ってから首都圏における緊急事態宣言の影響が大きく、1月の宿泊数はコロナ以前の1割～2割程度とさらに悪化した。GOTO停止の影響は非常に大きかった。

(上期見通し) GOTOキャンペーンの再開があれば21年度上期にV字回復するのではという期待も根強い。3月の宿泊客はかなり戻ってきているところもあり、五輪実施やワクチン接種など明るいムードが出てくれば、感染者の少ない地方への国内旅行客の多くが北陸を訪れるのではないかとみている。

20. ホテル 20/下期見通し：雨 20/下期実績：雨  21/上期見通し：小雨 (担当：藤沢)

(上期見通し) コロナワクチンの接種が一巡すれば、徐々に観光・ビジネスとも客足は戻ってくるとみられるが、インバウンドについては今年いっぱいの回復はほぼ見込めない。また一時的に感染や流行が下火になっても、再び増えてくれば同じことの繰り返しとなる。一方、五輪開催で明るいムードが出てくれば、社用の旅行は減ってもファミリーやカップルの国内旅行が出てくると期待する向きもある。実際最近では自粛疲れからか「地方ではコロナがほとんどないから大丈夫」という都会からの来客も多くなっているという。

年初を底として徐々に回復と予想しているものの、インバウンドが見込めない中では、コロナ以前の水準に完全に戻ることは難しい。